長崎県立五島高等学校　　第９号　平成２８年１２月２２日 発行

あこう風のたより

12月

発行責任者　原田　尚之

【校長室より】

修学旅行雑感

日常から離れ、新たな活力を得たり自分の殻を破ったりする機会として「祭」と「旅」が挙げられます。この１２月５日（月）～９日（金）に実施した２年生の「修学旅行」はまさにそのような機会ではなかったかと思います。

今年の修学旅行は天候に恵まれました。初日は、海路の日和もよく、機上では眼下に広がる雲を抜けて降下すると、富士山が鮮やかに姿を見せてくれました。雪の少なかった志賀高原のスキー場では、到着した夜に新雪が積もり、翌朝は一面の銀世界。翌日の午後からは抜けるような青空の下でスキーを楽しみ、その晴天は東京での自主研修から帰着日まで続きました。修学旅行に参加した２年生の胸には、一つ一つの経験や印象が、長野の大自然、大都会の東京の風景とともに深く刻みつけられたのでないかと思います。

メインのプログラムの一つであるスキーは、約１日半の研修でした。インストラクターの先生方の指導を受けながら、最初は転び方、スキー板を横にしての雪坂の移動、次にストックを持たないボーゲンでの滑り方と止まり方と学んでいきました。最初は恐々と、時には尻もちをついたり転んだりしながらも、その度に立ち上がり、徐々に感覚と動きを身体に染み込ませ、早い班は１日目の終わり頃にはリフトに乗って、雪坂の上へ。２日目には全班が雪坂の上からボーゲンで滑ることができるようになり、上達が早い生徒は両足のスキー板を揃えられるほどになっていました。子どもたちの飲み込みの早さ、吸収力の高さには、目を見張る思いがします。一度、身体で覚えたものはなかなか忘れないものです。この新たなことへ挑戦する経験から学んだスキルや感覚をスキーだけでとどめずに、ぜひ身の回りの様々な取組に当てはめて生かしてほしいものです。

東京での事業所訪問では、普通科は班ごとに大田市場、日本経済新聞社、近畿日本ツーリスト、ＪＩＣＡ地球広場、文部科学省、特許庁、ＪＡＸＡ調布航空宇宙センター、大塚製薬を訪問し、中でも本校卒業生が活躍されているヤマト徽章、ＤＨＦ第一高周波工業、高栄警備保障、しまナーシングホームでは歓待を受けました。生徒は各事業所の周到な準備に感動するとともに、熱意溢れる説明を受け、社会で自らを活かすことの意義を十分に感じたようです。衛生看護科は西新井病院を訪問し、最新の医療設備や技術への知見を深め、高度な医療環境のもとでも力を発揮できる看護師となる決意を固める機会となりました。午後からは班ごとに原宿や浅草、東京スカイツリーなど訪ね、東京の風物に触れる一方で、そこから再び、五島を見直すこともできたと思います。今回の旅は自分や日常を新たに見直す視点をもたらしてくれたことでしょう。

今、２年生では、総合的な学習（バラモンプラン）で模擬政党をつくり、五島の活性化を図る方策を練る取組を始めています。今回の修学旅行の経験をもとに、五島を新たな視点で見つめ直し、より魅力のある五島を考える取組へとつなげてくれることを期待しています。

２学年修学旅行、貴重な体験ができました

私が、この修学旅行で特に印象的だったことは三つ。一つは、スマホなど持ってきてはいけない物を持ってこない生徒ばかりだった(であろう)ということ。あなた達のそういうところが好きです。二つ目は、あることで指導を受けた生徒達が、翌日の朝誰よりも早く朝食会場に現れ、みんなのために椅子を並べてくれていたこと。あなた達の表情を見ていると、今後の成長が楽しみになりました。三つ目は、飛行機が遅れてジェットフォイルからフェリーになることがわかった時の生徒達の冷静な反応。誰も責めることができないですからね。それよりも、その飛行機の待ち時間で飲み物を買うことが許可され、空港内の有名コーヒーショップで飲み物を買えるとわかった時の生徒達の嬉しそうな表情が最高でした。

（ ２年学年主任　吉田　真也 ）

一面の雪景色、感動しました。

…　修学旅行　生徒感想　…

食事風景

東京での班別自主研修では、途中で班が分かれてしまい、たくさんの方に心配をかけてしまいました。「何とかなる」と過信していたことや集団行動の意識が低かったことが原因です。たくさんの人が私達のことを心配してくれていることに気づくことができたので、良かったなと思いました。また、今回は移動が多く、一般の方と一緒になったりすることも多く、気遣いや思いやりも大切だなと思いました。道をあけたり、あいさつをしたり、お礼　をしたりする機会がたくさんありました。最初は、先生達に言われて行動したりしていましたが、最後の方は自分達から注意をしたり、声を掛け合って行動できるようになっていたと思います。

ホテルでのリクリエーション

スキー研修

修学旅行では、一人で行く旅行とは違い、集団ならではの難しさもありました。みんなの意見を聞かなければならないけれど、相手の意見だけでは自分に不都合が起きてしまうことや、なかなかみんなの意見が一致しない時など、いろんなケースがあります。その時に大切なのが、やはり「リーダー」の存在なのだと再認識しました。しかし、リーダーだけに責任を押しつけず、リーダーを中心に話をまとめることが何より重要で、一番難しいことなのです。これから、自分自　身がリーダーになったり、リーダーをサポートする立場になった時、自分を理解した上で、相手を理解していけるように心がけていきたいです。

お台場にてクラス写真（２－５）

羽田空港

５日間の修学旅行から帰ってきて、思うことはたくさんあります。その中の一つは「初めての出来　事」。初めて学　年の皆に誕生日を祝ってもらったということです。クラスから祝ってもらうことはあっても、学年からお祝いしてもらうのはこういう機会でないと体験できないという嬉しい「初めて」でした。

今回の修学旅行は、ここまで準備をしてくださった先生方や旅行会社の方、親にとても感謝しています。こんなに素敵なものをつくってくださり、本当にありがとうございました。今後とも五高生としての自覚を持ち、残りの学校

九州飛躍の一年　来年度に向けて　陸上部

（顧問　岩元一章）

１０月１４日から１０月１６日までの３日間、福岡県で全九州新人大会が行われました。本校陸上部からは、補欠選手も含め男子８名、女子８名が参加しました。主な結果としては、男子110mハードルで１年生の後藤颯汰が４位、女子400mハードルで１年生の山口愛音が９位でした。まだまだ大きな舞台で活躍できる選手は少ないですが、多くの生徒が九州大会に参加できたのは貴重な経験でした。

今年度は、北九州大会に２７名参加、４年ぶりのインターハイ出場、県新人戦女子団体２位・男子団体６位と、陸上部にとって飛躍の一年となりました。この結果に満足せず、まずは来年の高総体で今年以上の結果を残し、一人でも多く上位大会に進出してほしいと思います。

芸術的感性を高める

１２月１６日（金）本校メモリアルホールにおいて、１年生の芸術科発表会を行いました。

音楽選択者はクラス合唱や学年全体での合唱を披露しました。発表会までの準備期間は２学期期末考査を含む一ヶ月と短く、少ない授業数の中でどのクラスも大変苦労しながら練習に取り組みました。当日は、今まで練習したことを発揮し、クラス一丸となって堂々と発表を行うことができました。芸術の授業は音楽と美術の２科目から選択するため、クラスによって男女の人数の差があったり、ポップスの合唱でリズムが難しかったりしましたが、歌詞の内容からクラスでイメージを共有し、表現を工夫することによって、声量バランスを克服することができました。音楽選択者は今回の芸術科発表会を通じて、自分の声と他人の声に関心を持ち、お互いの相違点を見つけ、より良い表現を追求していく姿勢を学びました。

音楽選択生１年２・３組の合唱

美術選択者は『人物画』、『風景画』いうテーマのもと、メモリアルホールの前で作品展示を行いました。４クラス合わせて４３名という少ない人数ですが、全生徒の全作品を展示しました。『人物画』の自画像デッサンでは、１枚目から２枚目の作品を通して生徒の成長が見られ、『風景画』では、水彩絵具で描かれた五島高校や五島の風景に、新たな魅力を感じられたのではないかと思います。普段は別々に授業を受けている音楽選択者と美術選択者ですが、今回の発表会で双方共に芸術的感性を磨き、今後の人生をより豊かなものにしてほしいと願っています。

敗戦をバネに次のステージへ！！　柔道部

（顧問　引地勝）

１１月１９日（土）・２０日（日）福岡県で開催された 第２０回九州高等学校新人柔道大会に女子団体・男子個人２名・女子個人２名が出場しました。女子団体出場は１０年ぶりで顧問として大変喜んでいます。選手は１年生６名、２年生１名でそれぞれ高校の九州大会が初出場で非常に緊張した面持ちで会場入りしました。

女子団体メンバー４名は、１年岡村美瑛（個人出場）、深松美月（個人出場）、眞弓唯伊、清川真伎です。男子個人は、２年梶尾博次、１年山本肇二朗、木場聖樹です。

女子１回戦の対戦相手は、熊本県の熊本中央高校でした。試合は、先鋒の岡村が積極的に相手を攻め込み、投技から寝技に移行して１本勝ちしました。その後、中堅（深松）・大将（眞弓）と粘り強く戦いましたが、結果的に１本をとられ、１勝２敗という内容で１回戦敗退という結果でした。個人戦は、４名が１回戦で敗れる中、岡村が２回戦へ駒を進め、全国優勝の結果を残している選手（福岡敬愛高校）と唯一、本大会で互角以上の戦いを演じましたが、惜しくも指導１反則の僅差で負けてしまいました。

今回は、全体的に残念な結果に終わりましたが、今後の練習で力を付け、長崎県の予選を突破し、２９年３月に日本武道館で開催される全国高校選手権大会や８月インターハイで、上位に進出することを期待しています。

本当の思いやりとは何か。１年衛生看護科

入所者への口腔ケア

６日間の後期の施設実習を通し多くのことを感じ、学びを深めることができました。まず校内実習とは違って血圧測定１つ行うにしても入所者さんは、脳梗塞の後遺症で麻痺があったり拘縮があったりして、測定するのに時間がかかり負担をかけてしましました。また、高齢のため動脈硬化があり脈拍を正確に測定することすらできませんでした。私が自信を持ってできると思っていたことがいかに間違いか痛感させられました。そのため１つ１つの手技をもっと自分のものにしたり、校内実習で身に付けたことを応用したりしないといけないか実践を通して学ぶ事ができました。さらに高齢者に対し、残存機能を保持するために何でもしてあげてはいけないということや介助者がした方が早くても相手の行動を「待つ」ということが大切だということがわかりました。今回、施設実習を通して感じたことや学んだことを大切に今後も頑張っていきたいと思います。（生徒感想）